

編集後記

専修大学法学研究所所報第59号をお届けいたします。法学研究所三役の任期満了により、2019年6月末をもって私は事務局長を退いておりますが、法学研究所の慣例に基づき、本号までは私が編集後記を記させていただきます。

本号には、大西楠・テア先生および家永登先生による論説、前川亨先生による講演記録、飯考行先生による法学研究所主催シンポジウムの開催報告、そして川上洋平先生、根岸徹郎先生、深澤民司先生にご参加いただいた小特集「文学と政治」を掲載しております。本号につきましても、法学研究所の積極的かつ多様な研究活動の展開を反映した、大変充実した内容の研究報告書となっております。ご多忙のなか、本号の編集にご協力いただきました先生方に、心より御礼申し上げます。また、本号が無事に公刊にいたしましたのは、前川前所長の献身的な編集活動への取り組みによるものであります。本号編集に対する前川前所長のご尽力に対しましても、心より感謝申し上げます。

私は、事務局員、事務局長として4年間、森川幸一元所長、前川亨前所長のもとで法学研究所の運営に従事し、その間様々な企画に携わらせていただくなかで、非常に多くの勉強をさせていただきました。とりわけ、法学研究所設立50周年という節目の時期に事務局長として記念企画を運営できる幸運を得、諸先生方が築かれてこられた法学研究所の歴史を再確認し、今後に向けて研究活動を引き継ぐ役割の一端を担えたことは、大変な誇りを感じております。改めまして、事務局在任中、シンポジウム、法学ワークショップ、合宿研究会などの企画の開催にお力添えを賜りました皆様に、心より御礼申し上げます。

法学研究所は、2019年7月より、深澤民司所長、二本柳高信事務局長という新たな運営体制において、積極的な研究活動を展開しております。今後とも法学研究所の活動にお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和元年(2019年)9月

渡邊一弘(前法学研究所事務局長)